



ほけん だより 11月 その2

弁当の日がやってくる

令和5年11月30日
江東区立深川第一中学校
養護教諭 栗原秀美

さる11月17日(金)、「弁当の日」提唱者の竹下和男先生をお招きして健康教育講演会を開催しました。はなちゃんの話、前頭前野について、非認知能力について、あこがれをもつこと、信じられないような現実の話など、中学生には少し長いかなと思える75分の講演会でしたが、みなさんいろいろなことを感じとり、考えてくれたようです。

感想文より

- 弁当の日になったら、へたくそでもいいから自分なりにおいしいごはんを作りたい。
将来のためにも健康には気をつけて生活していきたい。 【1年男子】
- 今日の講演会まではお母さんに弁当を作ってもらおうかなと思っていたのですが、はなちゃんの話聞いて自分もはなちゃんのようにになりたいなと思いました。 【1年男子】
- 自分が将来子育てをする立場になったときに、はなちゃんのお母さんがはなちゃんに大切なことを伝えたように、自分も自分の子どもに大切なことを伝えられるような人になりたいと思いました。 【2年女子】
- 弁当の日に向けてお母さんに料理を教わろうと思います。忙しいお母さんと話せるいい機会になりそうで嬉しいです。 【2年女子】
- 子育てが、料理が楽しいと思えるお母さんになりたいです。 【3年女子】
- 子育て・生き方の考え方は世代を通じてつながることを知ったので、自分たちの世代で変えていかなければいけないと感じました。 【3年男子】
- はなちゃんの話聞いて「何歳だからまだ手伝わせない、やらせない」ではなく、年齢に関係なくやらせるとちゃんとできるようになることが分かった。 【3年男子】

ここに紹介しきれませんでした。みなさんの感想文、とても良いものでした。竹下先生が『これから大人になり、やがて巣立つみなさんに伝えたいこと』をしっかりと受け止めてくれたことが分かりました。

竹下先生は100年後の日本を変えるために弁当の日を始めたとおっしゃっています。弁当の日を経験したみなさんが、人に喜ばれることに喜びを感じ、子育てを楽しみながら子供を慈しみ育て、やがてその子供たちが親になり…。そうしてつないでいくことで、みなさんが未来の日本、未来の世界を変えるのです。もちろん、子供のいない人生を選択することもあるでしょう。それもいいのです。健やかな心と体をもった大人が増えれば、社会は変わります。なんだかワクワクしますね。

なぜ、はなちゃんのお母さんは抗がん剤を拒否して母乳で育てることを選んだのか？ミルクで育てて少しでも長生きすることのほうが、子供のためになったのではないかと書いてくれた人がいました。なるほど、そういう考えもありますね。ただ、出産した直後に我が子を抱いたときに感じることや思うことは人それぞれです。あなたが将来、初めて我が子を抱いたときに感じることを大事にしてください。

最後にもう一つ。親になる適切な時期、というものがあります。「産まなきゃよかった」なんていう親にならないように、体だけでなく心もしっかり成長して経済力・生活力をつけてから親になってくださいね。「お父さんとお母さんの子供に生まれてよかった！」と言われるような素敵な親になってください。